

府中市健康地域づくり審議会
第3回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年9月20日（金） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所3階第4会議室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 平 地 緑（分科会委員）
藤 井 敬 子（分科会委員） 下 澄 子（分科会委員）
宗 藤 正 典（分科会委員）

4 概 要

- (1) 開 会
(2) 分科会長あいさつ
(3) 議事

前回のまとめと今回の議論のポイント・目標

第1回の分科会では、「次世代を担う人口の量の確保」という指示事項に基づき、府中市における人口推移、出生率、未婚率等の現状等について、子どもを増やすためにはどんなことが考えられるかという意見が数多く出された。

第2回分科会では、子どもの数を増やすために必要な4つの環境を整えるために、自立(雇用)・婚姻・出産・子育ての分野に目を向けて議論し、行政からは「発達障害への支援」「母子自立支援」について提案があった。

第3回分科会の方向性としては、「婚姻」「出産」「定住促進」に焦点をあてた具体的政策について議論する。

① 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- 結婚をしなければいけないものという意識が薄い。今の仕事を楽しければ結婚の負担をおわなくてもいいという考えの人も結構いる。
- 男性もあまり結婚したいと思っていない。
- 経済的理由で結婚できないと言う理由と、反対に経済的ゆとりがあるから結婚しない場合もある。
- 収入が安定している女性は、「養ってもらおう」という感覚は無い。女性が働いて男性が子育てしている場合もある。
- 高齢出産になるとリスクが高くなることを啓発していかなければいけない。
- 子どもが欲しいという前提であれば、(出産時期を)逆算して人生設計を考えた時に「このあたりで結婚しないと」という意識に繋がる。子どもが欲しいと思って

いても晩婚で不妊という事実にあたると時間が無い。

- 高校等の保健の授業の中で、出産適齢期についての知識を教えるのも必要。結婚適齢期よりも出産適齢期の方がもっと重要だ。学齢期からそういう知識を啓発していかなければいけない。結婚・出産に対する意識付け(啓蒙)はすぐに出来る取り組みだ。早い時期に結婚をしてもらうにはどうすればよいか。
- 高齢になると子どもができにくくなるのはメディアでも言われているので知識として知っているが、そんなにリアルに思っているわけではない。不妊治療の現状を体験者の声で知らせれば早く出産しようという意識になる。体力的・経済的に大きな負担をかけても授けられない人もいる現状を、高校生以上の若い世代に知らせる必要がある。男性の意識変革も必要である。
- NPO 法人等の活動で年配者や若者が集い、交流できる場を設定して既婚者を増やし、どんどん若い人も引き入れて結婚の良さを伝えていく。
- 出会いの場が無い。企業にも協力してもらい、「婚活」とうたわずに、業務の一環として異業種へ派遣したりイベントを企画したりして出会いの場を設定する。独身者には自由な時間はいくらでもある。
- 男女共に意識の啓蒙と、もうひとつは出会いの場の設定。それが無いと最終的には結婚に結びつかない。婚活と言わずに、共同作業をとおして同じ目的に向かっていけるような内容で、何回か連続的に出来るものを企画し、若い人を参加させる等、出会いの場を作ることは必要。
- 住宅事情等で何か特典を付けなければ、早く結婚しても市外に流出する。
- 府中市は、災害が少ない。災害に強い市というのは売りになる。「災害に強い」ことを発信していく。そこに住む人の暮らしが見えるような情報発信をしていく。
- 福山に出ていく人を食い止めるより、東京や横浜等、都会の若い世代にアピールする。住宅事情へ行政として特典をつける等、結婚しても定住してもらうようなことを考えていかないといけない。仕事があれば若い世代も来る。
- 情報誌等、若者が見る雑誌に年に数回広告を出して府中市の特典やアピールを発信していく。結婚も転出の問題も住宅事情に関係している。うまく何かが出来れば府中のアピールになる。転出の多い福山に無くて府中にあるものを知らせていく。
- 出産に伴う特典等、打ち出せる自慢できる所があるのが転出の抑止力になる。
- 住んでみたくなる街の雰囲気・空気を出す。街中なのに森のような公園があるとか、豊かな自然が府中にはあるような住み方のイメージを整えることも必要ではないか。
- 実際に暮らしている人に伝えてもらうのが一番伝わりやすい。憧れの場所でないとそこに住みたいと思わない。
- 転入者の不安を取り除いてくれるようにマンツーマンで話を聞いてくれる。ワン

ストップで何でも教えてくれる“何でもコンシェルジュ”“お節介さん”的な場所を作る。

- 市民である証明書を見せたらいろんな市内のいろいろな施設に無料で入るような制度の特典を付ける。
- 婚活で出会いの場を作る。“婚活”と銘打つと敷居が高くなるので、何かを一緒にやり遂げるような内容で連続講座を仕組むと良い。
- 独身限定のカフェとか。毎日そこに通えば誰かが居る。
- 雑誌の中の風景のいい街をうらやましがるのではなく、ささやかな事でも楽しみを見つけられる人を育てることが府中市に足を止めておくことになるのではないかと思う。どこに行っても自分が育っていないと人生を楽しむことにならない。(皆でそういう人を)育てよう。企業にも、独身者が講座へ参加しやすいように協力してもらう。
- 結婚したら家事全部を自分がすることになるのは嫌、それなら独身で自由に楽しんだ方が良く考える女性が多い。結婚に踏み切れない理由はそこにある。
- 家庭が疎かになるからフルタイムでは働きたくないとパート雇用を好む傾向もある。
- 独身の時には輝いていた先輩が、結婚すると自分のオシャレや身の回りの事に構わなくなっていく姿を見て、独身者は子育てが大変だとか結婚に魅力が無いとか思い込んでいるのではないかと思う。それを無くしていくためには結婚の楽しさを伝えていく事が必要だ。結婚・出産して家族を持つと外見は変わっても一人の時には得られなかったもの等、人間としてスキルアップ出来たり、子どもから与えられたものが絶対あることを発信していく。

②今後の方向性

○短期的政策としては、

- ・まず出会いの場を作っていく。「婚活」を前面に出すのではなく連続講座的な取り組みで、参加者同士が継続した関わりが持てるような取り組み。
- ・近隣の若い世代が読む情報誌等へ府中市のアピール情報を載せる。
- ・経済的支援として、出産祝い金や定住促進のための補助金等の制度。
- ・「住みやすい街」のイメージを明確にして、広く発信する。

○長期的政策としては、

- ・若い世代の意識改革をするための取り組みとして、学齢期の教育に結婚・出産の意識作りを組みこんでいく。

(4) 分科会副会長あいさつ